平成２２年度第１回

札幌市中小企業振興審議会

会　　議　　録

日　時　：　平成２２年５月１１日（火）１０時開会
場　所　：　札幌市役所本庁舎１２階　１～４号会議室

１．開　　会

○事務局（粟崎経済企画課長）　定刻となりましたので、ただいまから、札幌市中小企業振興審議会を開催させていただきたいと思います。

本日は、お忙しい中、ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

私は、このたび、４月１日付の人事異動で経済局経済企画課長に異動してまいりました粟崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

また、同じく人事異動により何名かが新しく着任させていただいてございます。

まず、産業振興部長に異動してまいりました本間でございます。

○事務局（本間産業振興部長）　おはようございます。

私も、４月から産業振興部長を務めております本間でございます。

皆様もよくご存じのように、札幌市内の企業の多くは中小企業でございます。きょうご審議いただきます産業振興ビジョン、それから諮問しておりますものづくり振興戦略、毎年毎年の経済施策、こういったものは基本的に中小企業を対象としてございます。ビジョン、それから、ものづくりの戦略につきましては、審議会での検討を初めといたしまして、ヒアリングあるいはアンケートという形で、実際に商売をやっていらっしゃる方、あるいは中小企業と深くかかわりのある皆さんのご意見を伺いながら策定をしているところでございます。毎年度の予算編成につきましても、そうした実際に商売をやっていらっしゃる方、あるいは、その周りの方のご意見を極力いただきながら、本当に中小企業にとって役に立つ計画、事業を実施してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（粟崎経済企画課長）　ほかに３名、課長職で異動がございましたので、私の方からご紹介させていただきたいと思います。

まず、金融担当課長に異動してまいりました松田でございます。

産業振興課長に異動してまいりました三上でございます。

人材育成担当課長に異動してまいりました池田でございます。

本日は、１３名の委員の皆様にご出席をいただくということで、まだ２名ほど到着していらっしゃいませんけれども、遅れる旨のご連絡をいただいてございます。ご欠席の委員の皆様ですけれども、平本委員、大崎委員、菊嶋委員、大嶋委員、柴田委員、田村委員につきましては、所用のため、ご欠席ということでご連絡をいただいてございます。また、本日はご欠席されておりますけれども、北海道経済部商工局長の大崎委員につきましては、人事異動に伴いまして、新たに委員にご就任をいただくことでご了解をいただいてございます。

次に、資料の確認でございます。

本日は、事前に皆様にお配りした資料を使って審議をさせていただきます。まず、机の上にお配りさせていただいている資料の確認をさせていただきたいと思います。一つは、座席表でございます。それから、カラー刷りのＡ４判１枚物ですが、札幌市産業の姿（ｐ.

７３修正案）です。その下に産業振興ビジョン策定スケジュール（案）、一番上が札幌市のものづくり企業のボトルネックと振興の方向性についてというＡ３判のクリップどめのものでございます。これが、本日机の上に配付をさせていただいているものでございます。そのほかに、あらかじめお送りさせていただいておりました資料といたしまして、資料１として、産業振興ビジョンの全体構成（案）というＡ４判の１枚物でございます。資料２として、札幌市産業振興ビジョン（案）、これはビジョンの本文でございます。資料３は、平成２１年度第４回審議会からの主な変更点という変更点を一覧にまとめたＡ４判の１枚物でございます。

もし不足の資料等がございましたら、事務局の者にお知らせいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、これより後の議事運営につきましては、小林会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

２．議　　事

○小林会長　それでは、議事に入らせていただきます。

本日の議題は、札幌市産業振興ビジョンの素案についてとなっております。

まず、事務局の方から説明をお願いします。

なお、皆様からのご意見、ご質問につきましては、説明が一通り終了した後にお受けしたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、よろしくお願いします。

○事務局（粟崎経済企画課長）　それでは、私からご説明させていただきたいと思います。

座ってご説明させていただきます。

初めに、スケジュールの関係をご説明させていただきます。

机の上にお配りさせていただいておりました資料のうち、Ａ４判の白黒印刷のもので、今後の振興ビジョン策定スケジュール（案）というものでございます。

本日、５月１１日が審議会ということで、これはビジョンについてご議論いただく第５回目の審議会となっております。本日いただきました意見等を踏まえまして、この後のスケジュールでございますが、まずは庁内の会議でさらに議論を詰めまして、６月には市議会、経済委員会に報告をしてまいりたいと思います。こちらの方でもいろいろご意見をいただくことになってくるかと思います。その上で、７月にはパブリックコメントということで、市民の皆様に広く意見をお伺いしたいと思っております。８月には、皆様からいただいた意見を整理し、反映できるものは反映するという作業を行った上で、９月に入りまして産業振興ビジョンの策定を行います。その後、審議会の方に改めてご報告をさせていただいて、９月の中ほど以降になると思いますが、公表という運びにさせていただきたい、そんなふうに考えているところでございます。

スケジュールについては以上でございます。

それでは、本日の内容についてご説明させていただきたいと思います。

前回の３月３０日の審議会以降、変更を行った主な点につきまして、資料２の産業振興ビジョンの本文と、Ａ４判１枚物でお配りしています資料３の主な変更点の一覧表に基づいてご説明させていただきたいと思います。

資料３につきましては、これまでいただきましたご意見等について、主な変更点の該当箇所や修正の方向性を一覧で、全体で９項目でございますけれども、整理をさせていただいております。それから、資料２の本文の方につきましては、該当する修正部分を網かけで表示させていただいてございますので、ご覧になっていただければと思います。

それでは、目次的になっております資料３の主な変更点の一覧に沿ってご説明させていただきたいと思います。

初めに、資料３のナンバー１です。資料２の本文でいきますと、５ページになります。３、ビジョンの位置づけについてであります。

前回の審議会におきまして、ビジョンとアクションプラン等との関係をもっと表現した方がよろしいのではないかといいうご議論をいただきました。この点につきまして、現在、当審議会でご審議をいただいているものづくり振興戦略はもちろんのこと、観光に関連する計画など他部局で検討を行うものにつきましても、部局間できちんと連携を図った上で、整合性をとっていくことになります。これが明確にご理解いただけるような形で表現されていなかったということがございましたので、５ページの網かけの部分で記載させていただいております。さらに、その右の図の中に、札幌市の基本構想から始まりまして、長期総合計画、それから中小企業振興条例も踏まえた形で、ピンク色のところでございますが、札幌市の産業振興ビジョンが位置づけられており、それを受ける形で、それぞれの既存の計画や今後策定するアクションプラン的なものはその下に位置づけられるということを明記させていただきました。

次に、資料３のナンバー２でございます。本文でいきますと、６ページに当たります。４、ビジョンの基本方針の（１）北海道経済の中心都市としての機能・役割の発揮についてでございます。

前回の案の中でも、札幌市が道内市町村と連携を図って、北海道経済の牽引役となって産業振興を展開していく必要があるということについては既に明記させていただいておりました。しかし、札幌の役割や連携の図り方をより具体的に記載した方がよいだろうということで、網かけの前段の部分に、これまで培ってきた札幌の都市機能について北海道の他市町村に十分活用されることが北海道経済全体の活性につながるといった表現を加えさせていただきました。あわせて、項目の名称についても、もともとは北海道経済の牽引役としての役割ということでございましたけれども、今回の（１）のような表現に改めさせていただいてございます。

次に、資料３のナンバー３、本文でいきますと、８ページになります。（４）産学官連携の促進についてでございます。

前回ご審議いただいた中で、産学官の中に金融機関も入れる方がよいのではないかというご議論をいただきました。この点につきましては、もともと産学官の産の中に金融機関も含めていたのですけれども、そうすると、情報や資金面以外の金融機関の機能がはっきりしないのではないかというようなご指摘もございました。それを踏まえまして、それを明確にご理解いただけるように、地域の中小企業のネットワーク構築などに大きな役割を果たしている金融機関というような形で表現を補強させていただいてございます。

次に、資料３のナンバー４でございます。本文では、同じ８ページの下の方になりますけれども、（６）創造性を活かした産業の活性化についてでございます。

前回ご審議いただいた中で、芸術産業などについても触れてはどうかというご議論をいただきました。この点につきましては、産業面において創造性の考え方を取り入れることは重要であるといった趣旨で、「創造都市・札幌」宣言というものも既に札幌市では行っております。そういった観点から、それらの考え方については基本方針に位置づけてはどうかということで、新規に１項目を起こして、（６）ということで加えさせていただいているところでございます。

それから、数字がちょっと飛びますけれども、資料３のナンバー７でございます。これも文化の部分に関連しますので、先にご説明させていただきます。本文では５６ページから始まる部分の世界に誇れる文化芸術というところです。

変更点を５７ページ、５８ページあたりに記載させていただいております。文化芸術の中でも、札幌市はＫｉｔａｒａ、ＰＭＦ、札響などを有しているということで、音楽に関する優位性があるというふうに考えてられますことから、これらの可能性、創造性についての表現を加えさせていただいているところでございます。

戻りまして、資料３のナンバー５でございます。本文では３９ページのあたりです。（２）の道外需要の開拓についてという項目でございます。

前回のご審議の中では、卸売業、小売業などについてあまり触れられていないのではないかというようなご議論もいただきました。この点につきましては、ビジョンが業種別の施策を整理するものではないということはご理解いただけたかと思いますけれども、卸売、小売業等の重要性は今後も引き続き変わらないということでございますので、施策展開に向けた視点の道外需要の開拓という大きな流れの中に、卸売業、小売業、サービス業などのさらなる振興を通してというような表現を加えさせていただいてございます。

次に、資料３のナンバー６、本文でいきますと、４９ページから５１ページにかけてでございます。①豊富な北海道の食資源についてでございます。

この部分については、２点の変更を行ってございます。１点目が４９ページの中ほどでございますけれども、これは、内部で検討している中で、食資源を活用した産業振興を進める上では、健康意識の高まりというものも踏まえまして、食について健康という観点にも触れておくことが必要ではないかということになりまして、地産地消を進める効果として、健康面、輸送にかかるエネルギー削減といったものについても触れさせていただいて

いるということでございます。

２点目につきましては、農商工連携の理念についてでございます。６次産業の推進という形で触れている部分がございましたけれども、もう少し明確に記載する方がよいのではないかというご指摘もいただきました。この点につきましては、４９ページの下段の方に、北海道と連携して組成した農商工連携ファンドの創設という具体的な動きにも触れるという形で表現を加えさせていただいております。

次に、資料３のナンバー８、本文でいきますと、７１ページの文章と７３ページの図についてでございます。

前々回の資料では、食、観光、環境の三つのエンジンを動かしていくためにものづくりを基盤として位置づけていた資料になっておりましたけれども、前回の審議会において、それについていろいろご議論をいただきました。そこで、７３ページの図につきましては、各委員の皆様方へ送付後、何人かの皆様方から新たにご意見などをいただいたことも踏まえまして、内部でさらなる議論をした結果、机の上にお配りさせていただいておりました７３ページ修正案という１枚物がございますが、こちらのものを新たに作成しております。

まず、もともとあります７３ページの図を簡単にご説明させていただきたいと思いますが、これまでも、また、これからもいろいろな産業全体の振興が重要であるということには変わりがないということは、前回までの審議会で共通認識をいただいていると思いますので、まずは資料の中にすべての産業を明記することにいたしました。それから、ものづくりが食、観光、環境の三つのエンジンをはじめとしまして、それ以外の各産業を含む札幌市の産業全体を高度化していく、高付加価値化をしていく上で必要であり、または重要であろうということについても前回の審議会である程度共通認識が得られたのではないかと考えております。

そういう議論を踏まえまして、もともとお配りしておりました７３ページの資料につきましては、それまではものづくりを基盤という言い方をしていたのですけれども、それを改めまして、産業全体の高度化を図るための主要な手法という位置づけで、７１ページの文章の表現を手法ということで改めさせていただくとともに、７３ページのような基盤ということではなくて、高度化を図るための手法として、さらなる経済の成長、発展をしていくためのものであるというふうに表現をしてみました。

しかしながら、さらに皆様方から幾つかご意見をいただいたことを踏まえまして内部でもいろいろと議論をさせていただいた結果、今回１枚物でお配りしている絵の方がよろしかろうということになったものですから、今回、追加でご説明をさせていただきます。

もともと７３ページの絵につきましては、三つのエンジンから矢印が出ていてものづくりが記載されているというところが何かわかりにくいのではないかということになりまして、今回のような変更をしたのですけれども、修正案の方では、今後の産業振興の方向性として、食、観光、環境の三つのエンジンの重点化を図ることとなっておりまして、これについては皆さんのご賛同は大体得られているのかなということで、同じ表記をさせてい

ただいております。

一方、産業のさらなる高度化が必要であるということにつきましては、あくまでも食、観光、環境の重点分野だけではなくて、すべての産業に対してであるということ、矢印がここから出ているので紛らわしいといいますか、認識しにくいというご指摘でもあるのかなと考えまして、ものづくり産業の振興につきましては、三つのエンジンの下にぶらさげるのではなくて、横に並列に置くということが今までご議論いただいてきた内容に近いのではないかということで、この部分を変更させていただいております。もちろん、各産業の高度化につきましては、ものづくりというものだけで行えない部分も残りますので、こちらの表現の中には、ものづくりの産業振興などによる高度化ということで、それ以外の手法等についても必要であるという部分はやや幅を持たせた表現にさせていただいているところでございます。

あとは、資料３のナンバー９でございます。これは、全般にかかわる部分でございまして、用語説明を巻末にまとめてございましたけれども、各ページの下部に記載した方がよろしいのではないかというご意見がございましたので、今回は全般にそのような形で整理をさせていただいております。

簡単ではございますけれども、前回からの主な変更点につきましては以上でございます。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○小林会長　ありがとうございました。

それでは、ただいま事務局から説明のありました内容につきましてご意見、ご質問をお聞かせいただきたいと思います。

何かございませんでしょうか。

○三神委員　今の説明でも７３ページの修正案は出ているのですけれども、最後のページにしてしまうと、これが全部の姿になってしまいますね。タイトルも札幌市産業の姿となっています。こうなると、これから三つのエンジンとかものづくりを推進するということで最終的に終わってしまうのかという表現になりかねないのです。こちらのビジョンの全体構成（案）は大体決定したはずですけれども、第４章の産業振興政策の展開の中に、ボリュームの多い施策展開の方向性がずっと書いてあるのです。そして、並列されて、「札幌市経済のさらなる成長・発展に向けて」というタイトルになっています。このタイトルとこっちのタイトルが全然違うのです。これはどういうことなのか。せっかくここである程度まとめたはずなのに、ここでまた変更してしまうと、私も疑問に感じていたのですけれども、最終的にまた札幌市の産業の姿なのかとなってしまいまして、この構成図を見たらタイトルが違うので、これは、全体構成図で決定したスタイルで表現する方が間違いないのではないかと感じたのが一つです。

それで、最後に入れるから意識がここへ来てしまうのですけれども、４０ページの施策展開の方向性で図表が出ておりますね。これが今の産業全体を示しているわけですけれども、これがあって、次にその説明文という感じでずっと来ています。そうなれば、次の段

階の「札幌市経済のさらなる成長・発展に向けて」という前にこの図表が来る方がバランスがとれているのではないかと感じるのですけれども、いかがでしょうか。
○小林会長　どうですか。
○事務局（粟崎経済企画課長）　ありがとうございます。
　ただいまご指摘があった点は、大きく二つかと思います。
　一つは、修正案のタイトルが札幌市産業の姿ということで、もともとの７３ページと変わっておりませんが、こちらの全体構成図の中では、「札幌市経済のさらなる成長・発展に向けて」というタイトルになっているということだと思います。札幌市産業の姿というタイトルが余りなじまないのではないか、それから、ビジョン全体をくくっているかのような表現になってしまっている、位置もビジョンの一番最後に載せさせていただいておりますので､それと相まってそんな形になるのではないかというご指摘なのかと思いました。
　まさに今、三神委員がおっしゃられたとおり、タイトルにしても、札幌市産業の姿ということではなくて、こちらの全体像で書いてあるような表現で、「札幌市経済のさらなる成長・発展に向けて」という方が、この図の意味としてはなじむのかなと思います。それから、場所的なものも、一番最後に置きますと、確かにこのビジョンの本当の総括というような感じにもなりますが、実は、そこまで全部は書き込んではおりませんで、今、三神委員からご指摘があったような、４０ページのような具体的な施策などもこの中にはたくさん盛り込まれてございますので、場所的には確かに７０ページの大きな３番の項目立てのあたりに絵を入れて説明を加える形の方がしっくりくるかなと思います。
○小林会長　そういうことでよろしいですか。
○三神委員　よろしくお願いします。
○小林会長　では、ほかにいかがでしょうか。
○松本委員　用語説明のところで、２ページの下の５番に札幌市中小企業振興審議会に対する注釈があるのですが、これではなくて、上の札幌市産業振興ビジョン策定にかかわる基礎調査が５番となって、それに対する注釈ではないでしょうか。
○事務局（粟崎経済企画課長）　そのようでございます。済みません。まだ十分にチェックし切れておりませんで、その辺は再度確認させていただきたいと思います。ありがとうございます。
○三神委員　全体を一回おさらいしてみてください。前半と後半で違うところがありますから。
○事務局（粟崎経済企画課長）　はい。
○小林会長　よろしいですね。
　ほかにどうぞ。
○清水委員　もう少し議論を尽くした後で申し上げるとよろしいのかもしれないですけれども、こんな気持ちでこの会議を進めていただきたいと思います。
　私どもの手元にあります資料１の第５章に運用体制についてというところがございます。

これは、今回のビジョン案としては、確かに総花的ではありますけれども、たたき台としては本当によくでき上がったと思います。ただ、今、三神委員もおっしゃられましたとおり、全体をもう一度見ていただきたいと思います。例えば、７０ページと３２ページでは同じことを話されているはずなのですけれども、ニュアンスが若干違います。私の受け取り方が違うのかもしれませんが、この辺の整合性とか、全体としてダブっているところもあります。それはダブっていてもしょうがないという理解をした方がいいのかもしれませんが、第５章につきましては、アクションプランができ上がったときに、これは本当に必ずしていかなければいけないと思いますのは、毎年、これがどんな形で運営されているのか、是正すべきところはどこなのかということを、この審議会でメンバー構成が変わったとしても、総括をしていかなければいけないと思うのです。ですから、第５章に一言、アクションプランができ上がった後には毎年確認をするという確認作業についてぜひ一項入れていただきたいと思います。

それから、スポーツと観光の組み合わせのところで、部分的なことを申し上げますけれども、昨日、同友会で打ち合わせをいたしましたときに、日本全国でこんなに近隣に山があるところは珍しいので、ぜひ近郊の山を観光の目玉の一つにしてはいかがかというご意見もいただいてまいりました。

もう一つは、これはいろいろなところにかかわってくることで、私は前回も申し上げているのですけれども、少子高齢化と一くくりにするのではなくて、少子化と高齢化は全く別なのです。高齢化については、ひょっとすると生産人口にもう一度なっていただける、定年退職をしても、今までの技術をもう一度生かして指導をするなり、企業に参加していただいて、納税者の一人になっていただけるような可能性のある方が高齢化なのですけれども、少子というのは全く別な問題ですから、これもぜひお考えいただきたいと思います。

最後に、市長の責務というところをもう少し明確に出していただきたいと思います。これでもう最後だと思うのですけれども、市長の責務、あるいは責務なんて言うとかたいということでしたら、役割でも結構です。何時間もかけてつくったこのビジョンを今後どういうふうにして市長としてかじ取りをしていくのかという思いのほどをもう少し明確にお書きいただきたいと思います。

○小林会長　今のご意見にお答えいただけますか。

○事務局（粟崎経済企画課長）　ありがとうございました。

全体をもう一度見直した方がいいというご指摘につきましては、私どもも、改めて全体の整合性や重複している部分の表現等々について再確認をして、修正すべきところは修正させていただきたいと考えております。

それから、第５章の関係で、アクションプランをつくった上で、毎年、確認作業を行っていくべきではないかというご指摘だと思います。これにつきましては、きちんと確認作業を行っていくつもりでおりますので、それをこのプランの中に書くかについて検討したいと思います。

○清水委員　落とし込んでいただきたいと思います。
○三神委員　私も賛成です。表現としてこの中に入れないと、１０年先までですから、メンバーも全部一緒ではないのです。あなた方も異動してしまうのですから、やはり、それはきちんと文章に残しておいてもらいたいということを言われていると思います。ですから、２番目にそれを入れて、２番目を３番目におろすという形にしていただいたらいいのではないかと思います。
○事務局（粟崎経済企画課長）　いずれにしても、確認作業を行っていくつもりでございますので、その辺の文章の中にもきちんと明記するような形で対応させていただきたいと思います。
　それから、スポーツ、観光の部分で、札幌には山がたくさんあるので観光の目玉にしてはどうかというご意見をいただきました。これは、観光の振興ビジョンをこれから作成していくということでございますので、そちらの方でも十分議論されるように申し伝えをしていきたいと思います。
　それから、少子高齢化の部分です。特に、少子と高齢化は別物で、高齢化の部分は、６５歳以上であっても生産人口につながっていくのではないかというご指摘でございます。そこのところは確かにそうだと思います。ただ、その辺はこの中にはあまり書き込んでいなかったかもしれません。その辺をどんなふうに書き込めるかということもありますけれども、認識としてはおっしゃるとおりだと思いますので、何か工夫できないか検討をしてみたいと思います。
　それから、市長の役割、責務をどう明確化していくのか、そこをもう少し明確に書いた方がいいのではないかということでございます。これは、まだ全然ご用意しておりませんでしたが、お送りした資料の２番の表紙の裏側に、言葉としては「市長あいさつ」と書いてあります。ここは、あいさつといっても、単なるごあいさつということではなくて、このビジョンについての市長としての決意をここに書かせていただきたいと考えておりますので、ご理解をいただければと思います。
○小林会長　よろしいでしょうか。
　ほかにいかがでしょうか。
○平野委員　考え方にもよると思います。ただ、私としては、当初は札幌市もものづくりの振興にもう少し力を入れようという趣旨をスタートしていたような気がいたします。それが、実際には技術的なものとか人材的なものとかなかなか難しいものもあって、ものづくりの地位というか、だんだん小さくなっていって存在感が薄くなってきて、このような形になったのかなという気がします。やはり、今後１０年後を見て考えるのであれば、むしろ修正案よりも先ほどの７３ページに出ているような感じでものづくりを位置づけていただいた方が本当はいいような気がします。
　特に、コンテンツなどは、最近、急に北海道で伸びてきたように思われるのですが、実際にはそうではないのです。実は、コンテンツ産業というのは、２０年ぐらい前からひそ

かに札幌である程度の位置を持っていて、急にここに来て脚光を浴び始めた産業なのですけれども、そういうものも含めて、もうちょっとものづくりというものもある方が、１９０万人都市としては力強い動きになるように思います。当初、エンジンという言葉で表現されていたにしては、しょうがないといえばしょうがないのですけれども、もう少し現状を力強く引っ張れるような表現があった方が望ましいのではないかという気がいたします。

○小林会長　何かお答えいただけますか。

私が答えるわけでも何でもないのですけれども、これはビジョンの作成ですね。ですから、庁内においていろいろ議論しながら、皆さんの意見をいろいろ聞かせていただきながら、いわば行政として中小企業の将来についてのビジョンを作成しようということがあるわけです。今出されたものづくりについては、市長の諮問がありますでしょう。これは、今、検討委員会をつくってやっていますね。それを受けた形で、この審議会で諮問に答えるという形をとるわけです。ですから、今のところはそこが二つ重なっているのではないでしょうか。私の解釈では、諮問を受けた件については、まさにずばり、ものづくり産業の振興ということになるのだと思うのです。

ですから、今、平野委員がおっしゃられた趣旨は、確かにこのビジョン作成のスタートラインにおいては、牽引力としてのものづくり産業ということを非常に強調してスタートしました。しかし、あれもある、これもあるというのは確かにそのとおりで、いろいろな種類のことを取り入れている中でかなり包括的なものになってきたと思います。ビジョンは、大体がそういう性質を持っているので、「ので」と言うのはおかしいですが、それはそれでいいかなという気がしているのです。しかし、他方では、いわば諮問を受けた案件というのはまさにものづくり産業の振興ということですから、それについてかなり具体化したものが出されてきて、それを私たちが承認するという形で諮問に答えると、それはそれで目的は達成されることになると思うのですが、どうでしょうか。

そういうことだと思いますが、よろしいでしょうか。

ほかにいかがですか。

○山下委員　それに絡んで、今おっしゃったとおり、この会議のミッションというのは、今言ったとおり、ビジョン作成をある意味で確認しながら提言していくということだと思っています。それは、結果的には総花的になってしまったかもしれませんけれども、もう一回確認できたということだと思うのです。ただ、その中で、具体的には環境と食と観光というミッションははっきりしましたということなので、それとものづくりがどう絡んでくるかということがあるのですけれども、平成２２年度も含めて平成２３年のアクションプランがどうなっていくのかということが非常に気になっているのです。確かに、この中で、今言ったとおり、ミッションに関してはそれでよろしいと思いますし、提言の関係で確認をできましたし、再度、そこのコアミッションをやっていくのだということでよろしいと思うのですけれども、では具体的に何が変わるのだろうということなのです。そこまでいってしまうと、すごく気になっている言葉がいっぱい出てくるのだろうと思っていま

す。

今、これを受けた形で、平本委員を座長にしてものづくりの検討会をやっています。ここで具体的に何とかしていきたいと思っているのですけれども、食と観光と環境に関しても、例えば具体的にアクションプランという形のものを、どういう構成でやっていくのか、どういう人材を集めた形で具体的に落としていくのかというところを早急に考えていかないといけないと思っています。結果的にはミッションで終わり、３年ごとぐらいに見直したとしても、具体性がなければ反省ができない形になると思うのです。１０年たって結果的に変わっているのかというところがこのミッションを終えた後の大切なところだと思っています。ぜひとも、それは私たちもやらなければいけないし、市としても推進していただきたいと思っています。

○小林会長　ほかにいかがですか。

○池田副会長　ビジョンとしては内容が大分深くなってきて、他都市と比べても相当親しみのあるといいますか、内容のある内容になってきたと思っております。

その中で、一つだけずっと気になった言葉があるのですが、９ページの一番上に「創造都市さっぽろ」と書いてありまして、「ｓａｐｐｏｒｏ　ｉｄｅａｓ　ｃｉｔｙ」となっています。しかし、表紙に戻りますとチャレンジ都市ということになるわけです。例えば、これから企業誘致とか海外への経済界も含めていろいろなアプローチがあったときに、「ｓａｐｐｏｒｏ　ｉｄｅａｓ　ｃｉｔｙ」というのがイメージとして通じるかなという疑問がわいてきました。創造都市という言葉は非常にいいなと思うのですけれども、それをもうちょっと的確に表現することによって、このビジョンがもうちょっと生かされてくるという気もしたのです。

ですから、例えば、表紙の一番上に、都市さっぽろを目指してとか、そういうキーワードのようなものがあると、私たち経済界としても一民間人としても、あちこちに行ってもこのビジョンを配ったり、札幌を理解してもらったりすることができるのではないかということで、札幌市産業振興ビジョンというこの表紙も案ですけれども、この上に、経済的な活動でも文化的な活動でも使えるような言葉が皆さんの中にもしあったら出していただければ、生きてくるビジョンになっていくのではないかと思いますし、そのキーワードによってこのビジョンも生きてくるのではないかという気がします。

「ｓａｐｐｏｒｏ　ｉｄｅａｓ　ｃｉｔｙ」というのは、海外から見て、ちょっと違うふうにとられるのではないかと思います。どんな言葉がいいか、私もいろいろ考えているのですけれども、ぜひ、いろいろな関係機関とも確認し合って、いい言葉はないかと。そして、その言葉が常に共通して、海外に行ったときも、どこに行ったときにも表現できるような言葉がもし見つかればありがたいと思います。私も考えてみますけれども、ぜひ皆さんでも議論していただければありがたいと思います。

○小林会長　これはいかがですか。

○三神委員　今のご意見でいいのですけれども、そうしますと、札幌市の産業の目指す姿、

そして基本理念がここに入って、その基本理念がこの表紙に出ているので、ここから変えなければいけないことになるのではないかと思います。その辺のところを市の方として考えていただいて、総合的に考え直して、タイトルを変えてしまうのかという問題にまで行くと思います。

○池田副会長　単純に、例えばチャレンジ都市を創造都市とすることだけでも可能かなという気もしないわけではないです。ただ、これをどう民間企業も生かせるかというふうに考えたときに、四角四面に考えないで、キーワードを一旦考えてみて、あるいは統一した創造都市さっぽろを目指すということの方がいいのか、それをすると、今おっしゃられたように、いろいろな要素が含まれないので危険なのかどうかというところは、最終的にフィルターをかけてみて、場合によってはこれでいいのかもしれません。ただ、チャレンジ都市のところは創造都市にした方がいいような気もします。そうすると、今言ったように一要素しか入らないような気もしますし、ちょっと悩むところかなというふうに考えております。

○事務局（井上経済局長）　経済局長の井上でございます。

今の部分は、非常に大事な提言だと思っております。

実は、創造都市の部分は、庁内でもいろいろ議論がございまして、これは市民の皆さんにはイメージとしてわかりづらいのです。それから、まちづくり全般の指針として創造都市という言葉はあるというふうに思われます。したがいまして、非常に大事な提言なのですけれども、わかりづらさをどのように払拭できるかというところがすごく大きな問題だと思ってございます。チャレンジという言葉も、ある意味では市民にとって非常にわかりやすいです。創造都市ということになりますと、イメージがなかなか難しいところがあります。基本理念は変わらなくていいと思っているのですけれども、創造都市というまちづくり全体を包含するコンセプトをここの中でどうやって結びつけられるかはちょっと検討が要るかと思います。

○小林会長　清水委員、どうぞ。

○清水委員　私どもは、これが基本理念としてここに至るまで是々非々として認めてきたわけですので、言ったら切りがないぐらい、いろいろあると思うのですけれども、とにかく決められたスケジュールで、今、迫っているわけです。理念というのは、メンバーがそう変わったわけではありませんし、そうそう変わるわけではないでしょう。これで動かしてみて、何年かたって理念をもう一度見直そうよというところになって初めてもう一度見直してもいいのかなと思います。本当に微に入り細をうがち、ここでつまずいてしまうと、井上局長、前に進まないのではないでしょうか。ですから、理念というものの我々の理解が間違っていなかったような気がいたします。

○事務局（井上経済局長）　確かに、スケジュールはあるのですけれども、当然、委員の方々からいただいたご意見につきましては、なるべくこのビジョンの中で反映させていきたいという基本的姿勢です。池田委員のおっしゃったことは、基本理念と違うということ

ではないと思うのです。表現の方法として、チャレンジ都市という言葉よりもむしろ創造都市という言葉の方がこの理念をより明確にあらわせないかというご提言だと思うのです。ですから、そこのところは当然検討いたします。ただ、先ほども言ったように、「ｓａｐｐｏｒｏ　ｉｄｅａｓ　ｃｉｔｙ」という言葉自体が市民にとってはすごくわかりづらいということも一つの問題としてはあるのです。それは、庁内でも議論があるところなのです。ですから、これを市民にお示しするときに、今の段階でどちらの方がいいのか、わかりづらい言葉でもそれを出すべきなのか、市民にわかりやすい方がいいのか、議論があるかなと思っていますので、事務局の方で検討させていただきます。

○清水委員　済みません、私の表現が悪かったかもしれません。

ひょっとして、サブタイトルとしてここに理念が出てこなくてもいいのかもしれません。今、池田副会長がおっしゃったとおり、創造都市さっぽろというキャッチコピーがあって、それはそれで生かしておくと。しかし、理念をそんなに変えていいのかなと、ちょっと悲しい気持ちがいたしました。

○池田副会長　理念を変えるつもりはないのです。これを活用するのに、もし、産業ビジョンというタイトルとしてあったときに、民間企業としては、民間のお客様も受け入れてくれないのではないかなという素朴な疑問があったのです。今回、民間人として意見を申し述べる機会があったということから言うと、民間人が使いやすい表紙とは何かと。井上局長がおっしゃったように、基本理念は変えなくても、何か訴える言葉があるととても活用しやすいなという気持ちでおります。それから、創造都市の英文名は何か誤解を招くような言葉なのではないかというのがもう一つの要素です。

○小林会長　ほかにいかがでしょうか。

思いつきでもよろしいですから、この機会にどうぞご意見をおっしゃっていただきたいと思います。

最初にスケジュールを示されましたが、この後、庁内でかなり細かく議論されるわけですから、その過程で微修正程度はあり得るわけですね。そういうものを施した上で、議会に報告し、パブリックコメントへと進むわけです。もちろん、その過程の中でもこの審議会としていろいろ意見を申し述べる機会はあるわけですが、この素案を確定する段階で最終的にこの委員会で議論をして決定するという手順を経ているわけです。いずれにせよ、庁内でもいろいろ細かい検討はしていただくわけですから、気がついた点や思いついた点がございましたら、今のうちに出しておいていただけたらと思います。

○三箇委員　先ほど清水委員からも話がありましたが、３２ページの（３）に「『札幌型ものづくり産業』振興の必要性」という定義があります。それをもって、７１ページの（２）に「札幌市産業のさらなる高度化を図るために」と書いてあるのですが、この高度化とはどういう意味からして高度化ということなのですか。高付加価値をつけることが高度化という意味なのですか。最初のものづくりの絡みで、産業全体のパーセントで言うと４．７％ぐらいですか。それをもっと膨らませたいという話だったのです。今のものづくりの委員

会もそうですが、高度化ということであれば、これは何もふえるという可能性はないかもしれません。その辺の表現の仕方がどうなのか、そういうぐあいに感じます。

それと、下の方に行きまして、網かけの下の方で「一次産品を加工し、商品化」とうたっているのに対して、次のページに行きますと、「付加価値を付けた製品として」となっています。これは、やはり商品という言葉に置きかえるべきではないのかという感じがします。

それから、同じページの上から６行目に「ＩＴ産業、コンテンツ産業は、製品モノや」とありますが、この「製品モノ」とは何ですか。ちょっと意味がわからないのです。この辺のところをご説明いただければと思います。

○小林会長　言葉の使い方に若干混乱があるかと思いますが、どうですか。

○事務局（粟崎経済企画課長）　最後にご指摘をいただいた「製品モノ」というのは間違いでございまして、「製品」が余計だと思います。「モノやサービスに」というのが正しい表現だと思います。あと、製品か商品かという部分につきましては、用語の使い方にもう少し整合性をとるような形で整理をさせていただければ考えております。

○小林会長　最初の質問の趣旨は、高度化が即、量的拡大を意味しているわけではないということですね。

○三箇委員　そうです。

○小林会長　しかし、強調したい点は、高度化でしょう。高付加価値化ということだろうと思いますので、その辺は検討してください。

ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○小林会長　それでは、何かお気づきの点があったらまたご指摘いただくとして、皆様から大変たくさんの意見をいただきました。この会議では今までもずっとそうしてきたと思うのですけれども、事務局の方で素案を確定させる過程で、今出たような意見をできるだけ生かしていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、今後のスケジュールを含めて、この先、どのように今の素案が具体化されていくか、そのプロセス等をご説明いただけたらと思います。

○事務局（本間産業振興部長）　冒頭に粟崎の方からもご説明いたしましたし、ただいま小林会長からもお話がありましたけれども、今後のスケジュールとしましては、本日の審議会の後、庁内での会議を経まして、市長まで確認をいたします。その後、市議会、経済委員会で審議をいただきまして、7月にパブリックコメントを実施する予定でございます。パブリックコメント実施前には、事前にその資料を審議会の委員の皆様にはお送りしたいと考えてございます。このパブリックコメントでいただきました市民のご意見をビジョンに反映させまして、９月をめどに産業振興ビジョンの策定をしたいと考えてございます。公表前に再度審議会を開催いたしまして、パブリックコメントで寄せられました市民の意見、あるいは確定いたしましたビジョンの内容の報告をさせていただきたいと考えており

ます。
○小林会長　先ほど来、しばしば説明もありましたし、私からも申し上げたのですが、そういう手順になります。これについて、もうちょっとここをこうしていただけたらというご希望などがありましたら、この際、言っていただけたらと思います。パブリックコメントをする段階で資料を私たちに配っていただけるそうですから、その段階で皆さんの意見をいろいろ出して、反映していただくことは可能だと思います。いずれにせよ、最終的にはこの審議会において素案を確定する作業に入ることになります。
○三神委員　資料の配付は６月末ぐらいですか。この図表でいくと、市議会をやった後ですね。
○事務局（粟崎経済企画課長）　そうですね。６月下旬ごろになるかと思います。
○小林会長　大体スケジュールどおりに進めば、そういうことでしょうね。
　それでは次に、もう一つ、昨年度の審議会で諮問を受けて検討会を設置したものづくり振興戦略について、本当は検討会の経過報告を座長の平本委員にしていただくはずなのですが、本日は所用のため欠席されておりますので、事務局から説明をお願いしたいと思います。
○事務局（平木ものづくり支援担当課長）　ものづくり支援担当課長の平木です。どうぞよろしくお願いします。
　現在、ものづくり産業の振興のあり方、方向性について、上田市長への答申案ということで検討を進めております。現在、検討会を２回開催しまして、第３回を今月２８日に予定しております。皆様のお手元には第２回の検討会で使用した資料を用意しておりますので、それに従いましてご説明いたします。
　では、座って説明をさせていただきます。
　まず、札幌市のものづくり企業のボトルネックと振興の方向性についてというＡ３判横の資料が一番上にあります。ものづくり振興戦略の検討の進め方として、業界のボトルネックや成功事例のヒアリングを行って、そこから問題点や課題を見つけて戦略の方向性を見出して決めていきましょうという方法をとっております。１枚目には、ヒアリングとその結果から導き出された方向性を載せております。分野としては、食料品製造、バイオ、金属・機械、ＩＴ、印刷、コンテンツ、産学官連携ということで、ヒアリングを行った内容が表にまとめられております。
　次の表ですが、そこから導き出された方向性と産業振興ビジョンの基本施策との対比を２枚で行っております。左側に産業振興ビジョンの基本施策、右側にヒアリング等から導き出された方向性を載せて対比させております。
　まためくっていただきますと、一番下にものづくり振興戦略に向けた答申骨子（案）というＡ３判横のものがあります。第２回の検討会については、主にこの答申骨子（案）について検討していただきました。導き出された方向性が右側の第４章に書かれております。そして、第１章でものづくり振興戦略の必要性と位置づけ、第２章で基本的な考え方、第

３章では、重点分野の課題と戦略目標ということで、５年後のあるべき姿、そして第４章では、先ほど申しましたように、導き出された方向性を載せております。第５章では、戦略の運用体制についてという形で構成をしてはどうかということでいろいろご意見を伺いました。第２回の検討会の中でいただいた意見としては、第２章の④で、経営者の意識改革と社員のモチベーション向上というような表題で内容を書いてはどうかということでご提案申し上げましたけれども、皆様からは、例えば経営者の挑戦と社員の意識改革というような強い表現に変えた方がいいのではないかというようなご意見もありました。

それから、第３章では、ＩＴ産業で言いますと、５年後のあるべき姿として、道内異分野向け製品・サービスの販路拡大というようなことを出しましたけれども、ＩＴ企業の実態に合わせて、下請体質から脱却して差別化された自社製造やサービスの確立というような表現に変えてはどうかというご意見を伺いました。その他、いろいろご意見を伺いましたので、それに基づいてこの答申骨子（案）を手直ししまして、２８日の第３回検討会にお諮りしたいというふうに考えております。

一番最後に、Ａ４判横で検討会の作業スケジュールというものをつけております。中段やや下に第３回検討会とありますが、これが２８日に開かれる第３回検討会になります。あとは第４回、第５回と２回程度、２８日を含めますと３回の検討会を考えております。第５回で答申案を決定して、次の審議会でお諮りして決定していただいて、９月に市長に対する答申を行うという予定を考えております。

答申骨子（案）の資料に戻っていただきますけれども、市長に対する答申については、あくまでものづくり産業の今後５年間のあり方、方向性についてということになりますので、第４章で方向性を示すということで答申をしていただきます。これらの答申に基づいて、札幌市の方で具体的な事業と数値目標を決めていき、１２月にはものづくり振興戦略を策定し、市民に対して公表したいと考えております。最終的な公表は１２月という予定で考えております。

以上です。

○小林会長　座長の平本委員が欠席されているので、ここでいろいろ質問していただいたことにお答えいただくことが十分にできないかもしれませんけれども、皆さんからいろいろご意見を伺って、それを検討会に持ち帰っていただいて、再度いろいろ議論していただくことになるかと思いますので、今伺った範囲で皆さんからご質問やご意見等がございましたら、どうぞお出しください。

○三神委員　ものづくり振興戦略に向けた答申骨子（案）の右の下段が「ものづくり産業全体の基盤強化」となっていますね。その一番最初に企業誘致ですか。地場のものづくりを強固に育成するのですね。向こうから連れてきて、下請をみんなやらせるのですか。トップに出てくること自体、ちょっと疑問に感じるのです。

○事務局（平木ものづくり支援担当課長）　企業誘致については、このビジョンについてのご議論の中で、若年層、特に男性の２０代、３０代の若者が本州に流出しているという

ことで、それを防がなければならないというようなお話があったと思います。また、企業誘致で企業が来ることによって地場の企業の活性化も当然できると思いますので、そういう議論を含めて、企業誘致という項目を設けて戦略的な方向を検討したいと考えております。

○小林会長　三神委員、よろしいですか。

○三神委員　ちょっと納得がいかないですね。

○小林会長　そこは議論になるところだと思いますけれども……

○三神委員　安易な方法では全然ビジョンになりませんよ、これは。

○小仲委員　三神委員もおっしゃったように、私が思うのは、ものづくり戦略について、市が一生懸命に必要性と位置づけ、基本的な考え方を述べたとしても、結局、運用体制並びに今後の施策の展開についてというところで、育成とか促進などはあるのですが、札幌市の姿勢として積極的に採用するという姿勢が見えないのです。結局、研究開発はする、あるいはものづくりに精を出して頑張ろうと支援はするけれども、札幌市の施策の中で、企業誘致は、もちろん大きなところの誘致も必要でしょうけれども、結局は下請体制しかないと。実際にものづくりで頑張って努力しているところを札幌市が採用して、それを認める形のものが施策としてなければ、やはり、それは空回りするだけだと思います。

　ですから、運用体制のところに成果等の検証を行うとありますけれども、検証を行って成果をきちっとキャッチングする、受け取ってあげる体質はないものでしょうか。それがなければ、幾ら中小零細企業が頑張っても、そこに新たな発展性はないと思います。やはり、採用されることによってその成果も当然検証されますし、それが国内、海外、あるいは移入移出にしても、すべて回転していくのだと思うのですけれども、今は先詰まりです。そういった状態の打破は必要かと思います。特に文章として残していただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○小林会長　何かお答えがあればどうぞ。

○事務局（平木ものづくり支援担当課長）　第５章で数値目標を設定ということで、検討会の中でも数値目標を持った方がよいというお話がありました。ただ、どういうふうに持つかというのは、ある程度具体的な事業が見えてきてからということになると思います。また同時に、札幌市が地場の企業をどういうふうに育てていくかということになると思いますので、その部分まで戦略で書けるかどうかということはありますけれども、今のご意見は、第３回以降の検討会に生かしていきたいと思います。

○小林会長　三神委員、よろしいですか。

○三神委員　納得できませんね。

○山下委員　ちょっと補足というか、私もものづくりの検討委員会に入っていまして、座長の平本委員がいないので、平本委員に成りかわって話した方がよろしいと思います。私も今、これを見ていましたが、企業誘致をしたり、下請体制をさらに助長してという話は一切ありません。

○三神委員　ないでしょうけれども、このままで行ったらそういう形になるということです。
○山下委員　おっしゃるとおりです。ですから、その辺のところに関しても、その前のページの方向性に関しても、ここのところと全然合っていないはずです。方向性に関しては、前に出ていくプッシュ型の形でやろうという形で、プルなんか考えていないので、その辺のところを平本委員に成りかわって言っておきたいと思っています。
　それと、検討会も何回か行っているのですけれども、先ほど平野委員がおっしゃったように、この審議会そのものがものづくりありきでスタートしているところがあります。もう一回考えてみると、このビジョンもほぼそういう形で、ものづくりというのはその後に出てくる話なので、少しねじれかけてきた感じがあるのです。
　ただ、今、実際に考えているのは、ものづくりも、一番最初にビジョンの構成がありますね。ものづくりが初めからずっとあって、その中に食とか観光とか環境というのは余りなかったのです。ところが、今、コアのところは、食と観光と環境があって、さらに高度化していって活性化させるには、新たな札幌型の創造的なものづくりをしなければいけないという形で来ているのです。そこのところで、平本委員とも話しているのですけれども、どこまでやるかというのが少し見えなくなりつつあって、２回目ぐらいでその修正をしているのが実態です。
　私からすると、やり方としては、食と観光と環境自体を例えばシナジー的に創造化をどうするかという問題がありますし、せっかくこれだけコア・コンピタンスが出てきたので、食と観光と環境自体をさらに強みとしていく形にどうやってやるか、アクションプランで個別に落とした方がいいのではないかというぐらいに思っているのです。ものづくりはものづくりとして、産業を明確化してきていますから、今言ったＩＴとバイオとコンテンツとか、そこに絞った形でものづくりをやった方が具体的に落とし込めるのです。今は、どこまで具体的にしていくかというか、産業が少しあいまいになりかけているので、委員会をやってもなかなか明確になってこないのです。ですから、ものづくり検討委員会でもう一回、産業的にどこを対象にしてやるかとか、観光に関してはここには全然入ってきませんから、コアに入れたところで落ちないので、ここに関しては、２２年度とか２３年度にアクションプランでもう一回ここを落としていただきたいというのが、ビジョンとは別ですけれども、少しお話しさせていただいた内容です。
○清水委員　一番希薄になっている部分が、張本人と言うと大変申しわけないのですけれども、山下委員がそこに登場していらしたということを存じ上げなかったのですが、間に合うのでしょうかという素朴な疑問と、この部分を先送りにしてもいいのか、ここをもうちょっと詰めなければいけないのではないでしょうか。
○山下委員　当社も、今、ちょうど第５次の中計をやっているのです。合併もしていまして、業態もいろいろ変わっていますので、ビジョンを再確認する形で、コア・コンピタンスをもう一回確認して、コンセプト自体をはっきりさせようということで、ここまでは恐

らくビジョンの中に入っているのですけれども、問題は、具体的な中長期の戦略と１年ごとの活動方針なのです。ですから、そこのところがアクションプランでどうやって埋まるのかという形ではない限り、恐らく変わっていかないはずなのです。そこまでのミッションではないということは事実なので、ここではなかなかその話ができないのですが、戦略的にはより具体的な形で、ものづくりと食と観光と環境に関しては落とし込んでていかないと、恐らく評価、反省ができないのではないかと個人的には感じています。

○平野委員　私も、今の山下委員とほとんど同じような意見ですが、もう一つ、企業誘致については、私も委員でありながら、これを拝見して、えっと思って、こんな順番だったかなと、コンセプトの優先順位がこれなのかという感じでびっくりしたのです。びっくりしたというのは大変恐縮ですが、今、私の頭にあったのは、企業誘致が一番なのかなという一番下の優先順位をちょっと拝見して、これで本当にできるのかなと深く考えています。特に、数値目標が出てきているときに、例えば企業誘致をこの時代にどのぐらいできるのか、今は毎年１０件出ているのをさらに何倍にするとか、５０％増にするということができるのかなというのが一番心配です。

それから、我々が特に議論しているところは、札幌市というだけではなくて、札幌圏というところで考えているものですから、その辺もこの審議会の議論と多少違っているところがあります。ですから、ものづくりということで言いますと、札幌の場合は工業用の土地がないものですから、特に石狩や江別などの近隣の都市を含めた考えで私は主に意見を言っているのですが、その辺も札幌市の振興ということだけに限定すると、多少ニュアンスが変わってくるのかなということを、今、これを拝見して改めて感じた次第です。

それも踏まえて、今度はどうするのか。やはり、札幌市の振興ということで諮問を受けているのであれば、もうちょっと札幌市の振興に狭めて考えた方がいいのか、それとも札幌圏ということで考えるべきなのかということをもうちょっと仕切り直して考える必要があるのかなということを、今ごろになって大変恐縮ですが、ちょっと考えたのです。いかがいたしましょうか。

○小林会長　その点は非常に大きな問題で、例えば札幌圏であれば、非常に有力な工業団地である石狩湾新港地域とか、中心は誘致ですよ。もう当たり前の話です。ですから、札幌市を問題にするか、札幌圏まで広げて議論するかで話が相当違ってくるということはありますね。ですから、その辺をもうちょっとはっきりさせておいた方が話はわかりやすいと思います。

もう一つは、何で誘致なのだということです。向こうから何か呼んできて下請に入りましょうという質問も出てくるでしょうけれども、別にそんなことを言っているわけではないと思うのです。先ほどお答えにあったように、もう一つ非常に重要な点は、このビジョンの中でもデータが示されておりますが、札幌にはせっかく人材がいるのに、例えば技術系の学校を出た人たちが結構たくさんいるのに、雇用機会がなくて、道外にどんどん出ていってしまうわけです。これはもう資源の流出なわけでしょう。ですから、これを何とか

しなければいけないというのが非常に重要な課題としてこのビジョンの中にも出ているわけですから、その辺のつながりをはっきりさせれば、企業誘致の問題、つまり雇用機会の創出という問題と、もう一つは地場企業の連携とか、競合ももちろんあるわけですけれども、それが札幌の産業基盤を一層強化することになるはずだという話だと思うのです。ですから、その辺をもっと積極的に打ち出していただければいいのではないかと思います。

○三神委員　ちょっと確認させてください。

ビジョンの６ページで札幌広域都市圏と明確にうたわれておりますので、これをビジョンの中で忘れられると困るのです。ですから、札幌だけではございません。ここにちゃんと明確に入っています。

○小林会長　よろしいでしょうか。

○三神委員　企業誘致では、最初にあるチャレンジ都市さっぽろというものにはならないのです。基本理念になっていないわけですよ。ですから、ぜひ地場産業を育成するためのチャレンジ精神をここのものづくりのところでびっちりうたってもらいたいなと感じるのです。その中で、最後の方にこういうこともあるよというのならいいのですけれども、最初に来ること自体が問題です。

それからもう一つは、その地方で企業が不景気になりましたら、コストの高いところの人員整理やリストラを必ずやりますので、案外、あてにならないなというのが今までの実績ではないかと思うのです。ですから、その辺のところもよくお考えいただいてつくっていただきたいと思います。

○小林会長　せっかく用地造成をして呼び込んだ企業が、不景気になったらさっさと逃げてしまったということを嫌と言うほど経験してきているわけですから、そういうことも含めて、地元の産業基盤をいかに強化するかということが一番根底にあることは間違いないと思いますので、そういった趣旨のことも含めながら、この辺をうまくまとめていただけたらと思います。

○事務局（平木ものづくり支援担当課長）　第２章の基本方針でも、「市場ニーズを捉え、高付加価値製品を作り、国内外へ売る『ものづくり産業』へ」とありまして、今後、また変わってくるかと思いますが、方向性としては、全国で売れる製品を自社でつくっていって、きちんと市場ニーズをとらえて売っていく、そういう自立した企業を育てていくという姿勢が一つここに出ており、それは明白に検討会の議論の中でも出ております。また、基盤強化の中で企業誘致が一番最初に出ているので一番強化するということではありませんで、順番は特に気にしないで載せております。皆様のご意見を伺いながら、今後も検討会を進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

○小林会長　非常に活発なご意見をいろいろいただきました。これは、ぜひ検討会の方にお伝えいただいて、今後の議論のまとめに生かしていただけたらと思います。

○三神委員　今、気がついたのですけれども、産学官連携についてももう少し検討していただいたらいいと思います。産産学とか、いろいろな産業と産業との結びつきの連携とい

うものをもっと表現していかないと、ものづくりはできないと思うのです。ニーズをとらえている販売業者とそれをつくる製造業者という感じになる可能性もありますね。その辺のところはもう少し具体的になるはずですから、ぜひそういうふうにとらえてもらいたいと思います。

今も企業誘致の順番の問題がありましたけれども、素人が見たり、我々が一番最初に見ると、やはり中心的なものだなという誤解を招きますので、その辺は考慮していただきたいと思います。

○小林会長　ほかによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○小林会長　いろいろ、たくさんご意見をありがとうございました。

先ほど申しましたように、座長の平本委員が欠席されておりますので、今いただいたご意見につきましては事務局の方で持ち帰っていただいて、さらに審議を進めていただきたいと思います。

それでは、そろそろ時間も近づいてまいりましたので、本日の審議会につきましては以上とさせていただきたいと思います。

あとは、事務局に進行をお任せいたします。

○事務局（井上経済局長）　経済局長の井上でございます。

恐らく、今後も議論は続きますけれども、素案に関する議論につきましては、大体今日までかなと思っておりまして、きょうで５回目になります。いろいろなご意見をいただきまして、本音を申し上げますと、実は大変うれしく思っております。私どもが産業振興ビジョンをつくろうと思ったきっかけは、産業振興ビジョンの冊子にも書いてございますけれども、人口の増加と公共事業によってこれまで発展してきた札幌と北海道の経済が、そういう要素がなくなった段階でどういうふうになっていけば発展していくのかというところにございます。そのときに思いましたのが、簡単に言うと、産学官連携と言いますけれども、当然、行政と民間の方たちとの連携、それから民間の人たちの中でもさまざまな業種がございますので、そういう業種の連携など、全体の札幌連合軍といいますか、北海道連合軍といいますか、連合体で北海道、札幌が経済のために頑張っていかなければ、今後の札幌、北海道の経済の発展はないだろうというところにきっかけがあったわけでございます。

したがいまして、この産業振興ビジョンが、産と民といいますか、官と民といいますか、経済にかかわる札幌、北海道全体の議論のたたき台となり、その議論を通じて、今後の札幌と北海道の経済の方向性が示されまして、みんなが連携して進んでいくという状況になればいいなと思っていたのです。したがいまして、いろいろなご意見が出るのは当たり前でございまして、今後も、パブリックコメント等をやればさらにもっといろいろな意見が出てくると思っておりますけれども、そういう議論自体がすごく大事ではないかと思っております。

それからもう１点、先ほど山下委員からも話がございましたけれども、これはビジョンなので、この後にものづくり振興戦略もありますが、大事なのは具体的な施策です。そして、アクションプランをつくった後に札幌市もさまざまな施策をやっていくわけでございますけれども、その施策は、基本的には、経済活動は民間の活動でありますので、そこのところをいかに下支えするかという施策になってくるわけです。そこのところを連携しながら一緒にやっていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

３．閉　　会

〇事務局（粟崎経済企画課長）　本日は、お忙しいところを、どうもありがとうございました。

以上で本日の審議会を終了させていただきたいと思います。

以　　上